

テーマ②：水素ステーションにおける水素燃料計量器の性能評価

～燃料電池モビリティの普及へ向けて～

概要：脱炭素社会の実現へ向けた取り組みとして、次世代自動車への移行が世界的に進められています。

電気自動車とともに有力な一つとして燃料電池自動車（Fuel Cell Vehicle：FCV）があり、我が国でも累計 5,000 台以上が販売されています。FCV に並行して整備が進められている水素ステーション（Hydrogen Refueling Station：HRS）は、四大都市圏を中心に 160 箇所以上にのぼり、世界でもトップクラスの整備数です。FCV の販売が開始された 2014 年当時は多くが企業の社用車や公官庁の公用車でしたが、現在では一般ユーザーも増え、HRS では水素燃料の商取引が行われています。

このような背景から、産総研では、HRS における水素燃料の適正な商取引を担保するために、水素燃料計量器の性能評価技術の開発と規格化・標準化を進めてきました。

本発表では、産総研の開発成果を含めた水素燃料計量器の性能評価技術と国内外の規格化・標準化の動向について紹介します。

講師：森岡敏博氏 国立研究開発法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター  
工学計測標準研究部門 気体流量標準研究グループ 研究グループ長  
(ゼロエミッション国際共同研究センター 水素製造・貯蔵基盤研究チーム兼務)